

通し番号	3757
------	------

分類番号	12-45-14-08
------	-------------

(成果情報名)クスアナアキゾウムシの越冬生態	
[要約] クスアナアキゾウムシの成虫は、シキミに接した場所で寒さや風雨をしのぎ易く樹幹とあまり離れない場で越冬しており、また枯死寸前の樹幹内には幼虫・蛹のほか成虫も越冬していた。	
(実施機関・部名) 農業総合研究所・農業環境部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

シキミ害虫クスアナアキゾウムシの生態的特性を利用した防除技術を確立するため、従来不明であった本虫の神奈川県における越冬実態を解明する。

[成果の内容・特徴]

- 1 クスアナアキゾウムシの越冬成虫はシキミに接して発見され、樹幹上、幹・枝分岐部、幹・根の接点、地表部、地下、幹内など、寒さや風雨をしのぎ易い個所で樹幹とあまり離れない場で多くの場合単独で、ときに2個体が体を寄せ合うようにして越冬していた。このうち特に、幹と枝の分岐部に休止している個体が多く見られた(表1)。
- 2 樹幹の内部には多くの個体が越冬していた。幼虫の発育はばらついて一定せず、蛹も発見された。成虫は集団で(最大15個体)見られた事例もあり、その中には体色が強く赤味を帯びた新成虫も混じっていた。11月に羽化する新成虫は、低温に遭遇してそのまま幹内に留まって越冬することが示唆された。
- 3 シキミの樹齢は数年~20年位の事例がほとんどであるが、50年以上の栽培放棄林からも成虫が見出された。被害を受けて衰弱した樹での越冬が見られ、枯死樹からは成虫を見出せなかった。

[成果の活用面・留意点]

- 1 発生期中にシキミの枝を棒で叩いたり、手で木を揺すって落下成虫を開いた傘で受けるピーティング法で成虫が採取できる。
- 2 枯死寸前の被害樹には幼虫、蛹及び成虫が越冬しているので、これを伐採する。

[具体的データ]

表1 クスアナアキゾウムシのシキミにおける越冬状況

越冬場所 ^{a)}	個体発見株数	成虫	幼虫 ^{b)}			蛹
			若齢	中齢	終齢	
樹幹上	8	11 ^{c)}	0	0	5	0
幹・枝分岐部	9	13	2	18	1	1
幹・根の接点	1	0	0	1	0	0
地表部	8 ^{d)}	8	0	0	0	0
地下	1	1	0	0	0	0
幹内	9 ^{e)}	36	4	13	26	0
個体数計	36	69	6	32	32	1

^{a)} 「樹幹上」：つる性植物の被覆により傷付いた部位、草に被覆、食害された樹皮の裏、地表と接する食害によって削られたくぼみ、などの例を含む。

「幹・枝分岐部」：幹根際の枝分岐部の隙間（湿り気あり）、幼虫の食害孔内で虫糞に被覆、木屑等の被覆下。

「幹・根の接点」：地際。

「地表部」：根にしがみつき土に被覆（根と根の隙間）、幹根元で落ち葉・土に被覆、株元の草下で木くずに被覆、幼虫が食害した樹皮裏側の空洞。

「地下」：地下3cmの土中（幹と根の隙間）。

^{b)} 齢期は、別調査で得られた幼虫93個体の頭巾の計測値をもとに推定。

^{c)} 個体数は4回の調査の合計。

^{d)} 死亡1個体を含む。

^{e)} 死亡2個体を含む。

[資料名] 平成12年度神奈川農総研試験研究成績書（花き・観賞樹）

[研究課題名] シキミ害虫クスアナアキゾウムシの防除技術の開発研究

[研究期間] 平成9年～12年

[研究者担当名] 原 聖樹・鈴木 誠